



牧山ひろえ (まきやま・ひろえ)

参院 神奈川県選挙区 1期

そんな矢先、福島原発暴発阻止活動について、退職した技術者が相談したいという話が舞い込んできた。それを聞いたときに真っ先に懸念したのは、相手が退職者ということは、当然高齢者だということだった。危険を伴う作業を高齢者が請け負うという話であれば、それを後押ししてい

拳区である神奈川県の方たちから、特に小さい子どもの親御さんから放射線に関する電話やファックスが来るようになつた。

東日本大震災以来、私の選

失し、核燃料の溶融を起こした福島第一原発。この事故を前に、今まで培つてきた技能や技術を役立てたいと各界から結集した退職技術者たちの取り組みを牧山ひろえ参院議員が紹介する。

福島原発行動隊との出会い

いものだろうかという心配があつた。

その一方で、放射能汚染の拡大に全国民の不安と懸念が高まつていて、こんな正義感のある志の高い方々の活動について耳を傾げなくていいのかという思いもあり、話を聞いてみるとこにした。

「若い人たちに代わり自分たちが行こう」呼びかけに賛同して多くの隊員が集まる

入っていく姿を見て、いてもたつてもいられなくなつた。危険を伴う場所では、私たち退職技術者が若い人に代わって作業するべきではないか。

私たちには技術と経験があります。もし、放射線の影響で30年後にガンになるようなことがあつたとしても、われわれはその時は既に100歳。若手作業員の場合は、これから子どもを生む可能性もあります。若い人たちに行かせるぐらいうなら私たち退職者が行くしかない。そう思つてメールで呼びかけたところ、自分が動いてもいいという人がたちまち124人。それを応援しようと、いわゆる後方支援をしようといふので、行動プロジェクトの発起人で、現在は「一般社団法人福島原発行動隊」を組織化し、その理事長でもある山田恭暉さんは説明を始めた。

「テレビで若い人がどんどん構内の危険区域に

いたりでしょ? 多く

から放水しているが、しっかりとした冷却設備を作つて、長期にわたつて冷やすし続けなくてはいけない」と、この

活動の傍ら、貧困地域での医療活動を支援する団体を10数年続けてきた。議員となつた今はそうした公益団体を後押ししたいと思い、日本でも少額の寄附を税控除の対象とするよう取り組んできた。

行動隊の活動が本格的に稼働するには多くの障壁があるが、応援し続けていきたい。

それは、福島原発行動隊のよ

うに、市民による公益活動が定着していくためにも必要なことだと考へているからだ。

行動隊の発足からこれまでの取り組みなどを紹介。

■ 本格活動へ向けて

最初の院内集会は小さな会

議室で始まつたが、山田さん

との会話から1年以上が経過

した今では一番大きな講堂が

いつも満員となるほどであ

る。マスコミの関心も最初は

ネットニュースでしたが、次

第に地方紙、そして全国紙や

テレビ各社となり、今ではB

BC、CNN、ニューヨーク

タイムズなど世界中のメディ

アが取り上げていて、

の作業までには至つてない。

しかしだ腕組みして待つ

ては、①行動隊が活動す

るにあたり最善の安全

性が確保されること②

どんなに注意をはらつ

てもリスクが伴うとい

うこと、行動隊員本

人も家族も承知の上で

あること③行動隊員の

家族の理解や承諾を得

てること④行動隊員

が健康であり、健康で

あり続けること——である。

院内集会でいさつする牧山議員。

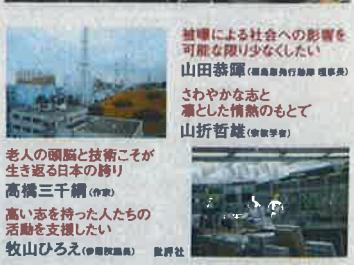
院内集会の日程についてのご案内は、

牧山ひろえのHP www.makiyama-hiroe.jp まで



福島原発行動隊 今、この国に必要なこと

山田恭暉――著者



■ 本の紹介 行動隊の発足からこれまでの取り組みなどを紹介。

福島原発行動隊は、原発内及び20キロメートル圏内での環境汚染モニタリングやがれき処理、除染等の作業に参加を希望しているが、いまに原発の現場そのものに入つて

本格活動へ向けて

行動隊の活動が本格的に稼働するには多くの障壁があるが、応援し続けていきたい。

それは、福島原発行動隊のように、市民による公益活動が定着していくためにも必要なことだと考へているからだ。

行動隊の活動が本格的に稼働するには多くの障壁があるが、応援し続けていきたい。

行動隊の活動が本格的に稼働するには多くの障壁があるが、応援し続けていきたい。